

《新会員のひと言》

松山 敏と申します。



札幌に住み着いて30年を超えましたが、このような素晴らしい活動を今更ながら初めて知る事ができました。

日本福音ルーテル札幌教会にて日頃から御厚情を頂いております栗原ご夫妻からのお誘いで、北大構内のクラーク会館国際文化交流活動室のドアをくぐったのは2015年6月のことでした。

朗読会「午後のポエジア」という催しでした。作者の創意が頂点に達した瞬間、執筆者の手元を離れて一人歩きしながら世に溶け混んで消え去ろうとする文章作品が、朗読するパフォーマーの手によって実にパワフルに復活する様は、作曲者が書いた譜面を様々な演奏者の情念によって全く違った色のサウンドとして再び世に放たれるエネルギーと同質のものであると、深い驚きと感動を覚えたものです。

その次は、時計台の二階ホールでのピアノ演奏会でした。主に札幌で活躍されている演奏家たちがこぞってショパンと言う人類共通の感動の壺に集められて鍵盤をかき鳴らし、遙か遠いポーランドの空気感を取り込み、札幌時計台の時刻を超えてサウンドして私たちの心の隔たりを無に至らしめる。

朗読会、音楽会のいずれにおいても、もろもろの国民、種族、民族、国語を超えた民の中から集められた子供や大人たちが、聞こえて来る清らかなパッションに耳を澄ましている。

その中に溶け込んで、私も子供達と同じように、

I listen to hear the sound of righteousness.

日頃の世俗のビジネスの混沌とは確実に隔てられ、溢れ出る喜びの涙に濡れ、ダイナミックな光に溢れたパワフルな世界を愛する皆様方の中に共に新たに迎え入れられているという現実的な出来事に対して、言葉の語源にある真実な事に迫る大きな至福に満たされており。 (まつやま・さとし)

はじめまして。國谷聖香と申します。



この度、松井亜樹先生からのご紹介で、北海道ポーランド文化協会に入会させていただくことになりました。私は大学ではピアノを専攻し、主にショパンの曲に取り組んで来ました(卒業試験はショパン作曲ピアノソナタ第三番全楽章を演奏致しました)。憧れの作曲家の故郷ポーランドの文化を学べるまたとない機会をいただき、とても感謝しております。

以前、ウィーンからプラハへ向かう列車「ドボルザーク号」に乗った時、隣の線路にワルシャワ行き「ショパン号」が待機していました。列車の名前に作曲家の名前が使われるヨーロッパの芸術への深い理解と愛情に感動するとともに、目の前にいるショパン号が向かう線路の先にあるポーランドという国へ想いを馳せたことを覚えています。

その気持ちを胸に、素晴らしい作曲家を生んだポーランドの文化や芸術、音楽教育を学ばせていただきたいと思います。 (くにや・せいか)

ショパンな十月 ショパン・コンクールが終わりました。街に行っても、公園に行っても、音楽に付き添われているような毎日でした。そのため、今年の十月は特別でした。次の五年間聴くことのできないコンクールだから、なおさらです。

z cichym szelestem  
pierwsze liście opadły  
mozaika dźwięków

きらさらと  
音のモザイク  
初落ち葉

ポズナン市、津田モニカ

światło latarni  
tka obłok mgły wieczornej  
powrót do domu

街灯の  
濃い霧を織る  
家路かな

ワルシャワ市、ピョトル・ヴジェチヨノ



ポーランド&ニッポン歳時記

開拓の女三代冬むかえ

(北村牧場チエ・由起・千寿子)

岩見沢市、霜田千代磨

忘却の海を眺めて多喜二の忌

(小林多喜二)

革命歌 10月17日のショパン曲

(10月17日・ショパン命日)